

「平成16年度専攻科研究論文」第8回公開発表会

開催にあたって

高等専門学校の特長は、端的に言えば早期高度専門教育と言えるでしょう。

中学校を卒業して、子供から大人へと成長する人生で最も伸び盛りの5年の間に、優秀な教職員や充実した先端設備と、少人数クラス編成による実験・実習・実技を重視した、きめ細かな実践的高度技術者教育や、ロボコンや全国体育大会など全国規模で活躍できる盛んな課外活動と親身な学生指導を通して、ものづくりが得意で、科学技術開発に世界的な貢献ができる幾多の優秀な人材を育成してきました。その卒業生は産業界や大学からも高い評価を得ています。

北九州工業高等専門学校も昭和40年の設立以来、約5千名の優秀な人材を世に送り出してきました。この間、我が国の産業界は目覚しく進展し、国際的経済競争が激化するにつれて、科学技術が我が国の明日を託せる唯一の重要な資産であることが再確認され、高専もより高度かつ幅広い知識と見識を備え、創造的技術開発能力を持った人材を育成する必要性が高まり、本校にも平成8年、生産工学専攻、制御工学専攻、化学工学専攻（現在、物質化学工学専攻）の三専攻からなる2年制の専攻科が設置されました。

5年間の本科の教育を基礎コースとするならば、専攻科は応用コースと言うべきもので、本科のクラス一斉のお仕着せ教育が主体であるのに対して、学生一人一人が自ら問題を発掘し、知恵と情報を総動員して自力で独自の解決策を見出す能力を涵養することに主眼が置かれます。専攻科で2年間にわたって取り組む「特別研究」はその集大成と言えます。

昨年4月全国55校の国立高専は、国立大学と同様に独立行政法人となりました。法人化に伴い、高専は大学と同じく高等教育機関の一員としての役割が法文に明記され、従来の学生の教育に加えて、教育研究活動を通じた地域社会等への協力、連携も業務として明文化されました。

本校としても学生教育だけに留まらず、開かれた「北九州高専」を目指して、地域社会との連携協力を積極的に推進して行きたいと考えています。この公開発表会は本校の教育研究の具体的内容や教官陣、施設設備など本校が持つ資産を知っていただく良い機会でもあります。

また、実践的技術者養成を目指す高専専攻科の研究課題は地域産業界に密着、関連したテーマが教育的観点からも望ましく、地域の企業や技術者の方々のご意見やご提案は非常に貴重な糧や参考となります。

お陰様で今年は第8回を迎えます。是非御参加頂き、学生や教官の反省や励みとなる、忌憚りの無いご意見やご提言を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年1月
北九州工業高等専門学校
校長 陣内 靖介